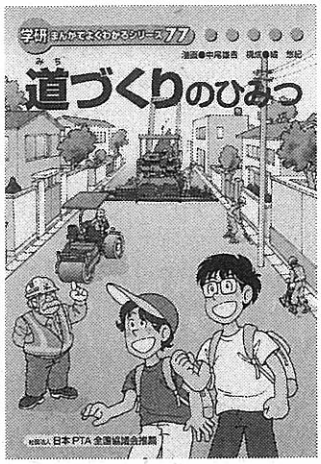
トピックス

《監修》NIPPO

学習漫画「道づくりのひみつ」が好評

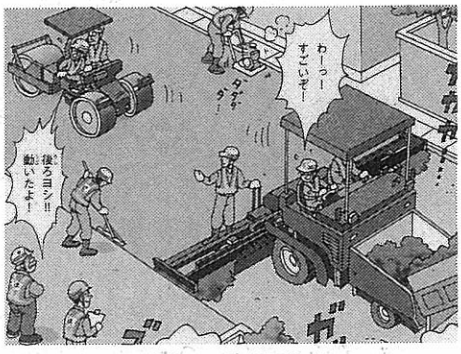
若手技術者への教育材料に最適などの声

若者の土木離れが進む中、道路の果たす役割や価値について、未来を担う子供たちに早い段階からしっかり伝えようと、NIPPOが昨年11月に発行した「道づくりのひみつ」が、全国の学校や図書館を通じて多くの子供たちに読まれ、「舗装について興味が持てました」、「道路に対する意識（価値観）が変わりました」、「日常何気なく当たり前のように利用している道に対し、歴史を知ったことなどで、より親近感を感じました」と制作を労う感想が多数寄せられている。



「道づくりのひみつ」表紙

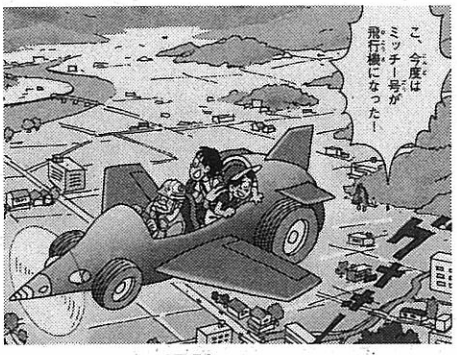
「道づくりのひみつ」は、学習漫画として知られる「学研まんがでよくわかるシリーズ」の77作品目として発行。平成13年のシリーズ発行開始以来、医療や食品、流通など様々な分野の作品がつくられているが、道路を対象にしたものとしてはこれが初めて。非売品として3万部制作され、全国の小学校2万3500校、公立図書館3000館に寄贈された。



道路工事体験中

小学校5年生の俊介と健吾が、道のことなら何でも知っているドクター老土（ろうど）の案内で、舗装がなかった過去の時代へとタイムスリップ。道路の今昔やアスファルトの製造過程、最新の舗装技術、東日本大震災からの復興等に触れることで、道路の魅力にどんどん引き込まれていくストーリーとなっており、「舗装」と「道路会社の仕事」をわかりやすく解説している。

とくに秀逸なのが、主人公3人が乗る探検マシーン「ミッチー号」。過去へのタイムスリップを始め、飛んで空から道路を俯瞰したり、ドラえもんの世界のように主人公たちもろとも小さくなって、道路の構造をミクロの視点で観察したりと、読者を飽きさせない。



冒険シーン

NIPPO管理本部企画部の村田信之専門次長によると、「シナリオは細部にもこだわって、アイデアも含めて自社で執筆」。読み応えも考慮して漫画の合間に「日本の高速道路の合計の長さは平成23年4月1日現在で約7900㌔」、「日本でこれまで最長の渋滞は、平成7年12月27日の名神～東名高速道路の154㌔」といった〝まめちしき〟もたっぷり散りばめた。

道路関係者からも「部内研修時の参考資料にしたい」、「若手技術者への教育材料に最適」、「今の大学生にうってつけの内容。副教材として講義で活用したい」と内容の充実を称える声が集まっているという。

「道づくりのひみつ」への問い合わせは、NIPPO営業企画部、電話03（3563）6711まで。